

《応用物理学専攻 博士課程前期》

令和8年度4月入学生を募集する専修部門と主指導教員及び主な研究内容

専修部門	主指導教員	主な研究内容
基礎物理学	教授 博士(理学) 固武 慶	爆発的天体现象に関する理論的研究
	教授 博士(学術) 林 壮一	物理教育に関する研究
	教授 博士(理学) 宮原 慎	磁性体などの物性理論
物性物理学	教授 Ph.D 武末 尚久	X線・粒子線散乱と第一原理計算による物性研究
	准教授 博士(工学) 大田 晃生	薄膜・表面界面物性に関する研究
ナノ物理学	教授 博士(理学) 香野 淳	物質のナノスケールの構造と物性に関する研究
	教授 博士(理学) 真砂 卓史	微細電子材料の電子物性に関する研究
	教授 博士(理学) 山本 大輔	生体分子の構造と物性に関する研究
物理情報計測	教授 博士(理学) 御園 雅俊	超高分解能レーザー分光学に関する研究
	教授 博士(理学) 端山 和大	観測的重力波天文学
	准教授 博士(科学) 大前 宣昭	次世代周波数標準に関する研究
	准教授 博士(理学) 政田 洋平	非線形物理現象の計算、データ科学手法による研究

授業科目、単位、担当者及び履修方法、主な研究内容（令和7年度現在）

※令和7年度開講科目は、シラバス（授業内容含む）をWebで公開しております。「電子シラバス 福岡大学」で検索の上、参照ください。

主要科目

専修部門	授業科目	単位数	担当者	主な研究内容
基礎物理学	基礎物理学講究 I	4	教授 博士(理学) 固武 慶	爆発的天体现象に関する理論的研究
	基礎物理学講究 II	4	教授 博士(学術) 林 壮一	物理教育に関する研究
	基礎物理学演習	10	教授 博士(理学) 宮原 慎 教授 博士(理学) 香野 淳 教授 博士(理学) 真砂 卓史	磁性体などの物性理論
物性物理学	物性物理学講究 I	4	教授 Ph.D 武末 尚久	X線・粒子線散乱と第一原理計算による物性研究
	物性物理学講究 II	4	准教授 博士(工学) 大田 晃生	薄膜・表面界面物性に関する研究
	物性物理学実験	10	教授 Ph.D 武末 尚久 准教授 博士(工学) 大田 晃生	
ナノ物理学	ナノ物理学講究 I	4	教授 博士(理学) 香野 淳	物質のナノスケールの構造と物質の物性に関する研究
	ナノ物理学講究 II	4	教授 博士(理学) 真砂 卓史	微細電子材料の電子物性に関する研究
	ナノ物理学実験	10	教授 博士(理学) 山本 大輔 教授 博士(理学) 香野 淳 教授 博士(理学) 真砂 卓史 教授 博士(理学) 山本 大輔	生体分子の構造と物性に関する研究

物理情報計測	物理情報計測講究 I	4	教 授 博士(理学) 端山 和大	観測的重力波天文学
			教 授 博士(理学) 御園 雅俊	超高分解能レーザー分光学 に関する研究
	物理情報計測講究 II	4	准教授 博士(科学) 大前 宣昭	次世代周波数標準に関する 研究
			准教授 博士(理学) 政田 洋平	非線形物理現象の計算・ データ科学手法による研究
	物理情報計測実験	10	教 授 博士(理学) 御園 雅俊 教 授 博士(理学) 端山 和大 准教授 博士(科学) 大前 宣昭 准教授 博士(理学) 政田 洋平	

特修科目

部 門	授 業 科 目	単位数	部 門	授 業 科 目	単位数
非 専 修	宇宙物理学 特論	2	非 専 修	物 理 情 報 科 学 特 論	2
	統 計 力 学 特 論	2		物 理 教 育 学 特 論	2
	量 子 物 理 学 特 論	2		科 学 教 育 研 究 特 論	2
	量 子 エ レ ク ツ ロ ニ ク ス 特 論	2		科 学 哲 学 特 論	2
	レ ザ 一 分 光 学 特 論	2		化 学 教 育 学 特 論	2
	結 晶 物 理 学 特 論	2		基 礎 物 理 学 特 別 講 義	1
	X 線 結 晶 学 特 論	2		物 性 物 理 学 特 別 講 義	1
半 导 体 特 論	2			ナ ノ 物 理 学 特 別 講 義	1
磁 性 物 理 学 特 論	2			物 理 情 報 計 測 特 別 講 義	1
生 物 物 理 学 特 論	2			化 学 教 育 学 特 別 講 義	1

- 1 学生は、主要科目のうちから 1 専修部門を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- 2 学生は、専修科目担当者のうちの 1 人を主指導教員とし、専修科目及び専修科目以外の科目の選定並びに学位論文の作成、その他研究一般についてその指導を受けるものとする。
- 3 前項のほか、学生は、主指導教員が定めた副指導教員の指導も受けるものとする。
- 4 学生の標準修業年限は 2 年とし、所定の授業科目について、合計 30 単位以上を修得しなければならない。
- 5 前項の 30 単位以上は、専修科目 18 単位（講究 8 单位、実験又は演習 10 単位）及び特修科目 12 単位以上とし、主指導教員が必要と認めた場合、他の専攻又は研究科の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 6 前項に規定する授業科目のほか、主指導教員が必要と認めた場合は、応用物理学専攻博士課程後期の特修科目を履修することができる。ただし、この修得単位は、修了要件単位数に算入しない。
- 7 学生は、主指導教員を主査として、専修科目について修士の学位論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。